

2025年度 事業報告書

事業の状況

1. 事業の実施状況

軽種馬の資質の向上並びに軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図り、競馬の安定的な発展を通じ、地域社会の健全な発展に寄与することを目的とし、以下の事業を積極的に実施した。

(1) 軽種馬の育成調教技術の改善・普及

軽種馬の育成調教技術の改善・普及を図るため、軽種馬生産・育成者等を対象に講演会・講習会を開催するとともに、技術普及誌（BTCニュース）を発行し、育成調教技術向上のための情報を提供することにより、生産地の基幹産業である軽種馬の生産・育成業の活性化を図り、地域社会の発展に寄与した。

- ① 育成技術講演会は生産者・育成者等の技術向上を図るため、9月に東北地区、九州地区において「英国・愛国における馬づくり」（BTC主催）、10月に北海道地区にて「英国・愛国における馬づくり」（(公社)競走馬育成協会主催）、12月に関東地区および関西地区にて「セルフキャリッジとは～正しくバランスを整える～」(日本中央競馬会主催)をテーマに開催し、全体で370名を超える参加者があり、活発な質疑応答がなされた。
- ② 育成調教技術者短期講習会は「育成牧場に就労する者に対する駆歩騎乗のレベルアップ」を中心とした内容とし、6月および10月に各4日間の講習会を実施し、12名が受講した。
- ③ 技術普及誌「BTCニュース」は、馬に関する基礎知識、生産・育成に関する技術および情報等を中心に年4回発行・配付した。
- ④ JRA競馬場来賓室の利活用方針に基づきBTCニュース広告主に対し、11月8日に東京競馬場にて研修会を実施した。

(2) 軽種馬の育成調教技術者の養成

軽種馬の生産地等において、育成調教技術者として就労を希望する者に、1年間の研修を通じ、馬に関する体系的な技術・知識を習得させ、育成調教業務の技術的中核となる人材を養成し、就労の支援を行うことにより軽種馬の生産・育成者の経営基盤の安定、強化を図った。

- ① 2024年入講の育成調教技術者第42期生は、4月18日に21名が研修を修了し、軽種馬の育成牧場に就労した。
- ② 4月22日入講の育成調教技術者第43期生27名は4月に1名、5月に1名、7月に1名及び10月に1名が退所し、23名が受講している。
- ③ テレビ北海道によるBTC研修生に焦点をあてたドキュメンタリー「青春サラブレッド～北海道浦河町27人の若者たちの夢～（続編）」のテレビ北海道制作に係る取材対応を1月～5月まで計19日行い、以下の放送が行われた。
 - ・7月21日テレビ東京系列全国6局ネット
- ④ 教官職に興味のある大学馬術部員を対象に2月10日～14日、25日～28日計7名をインターンシップとして受け入れた。
- ⑤ 北海道文化放送による斎藤佑樹氏・戸本一真 JRA 職員出演の番組「続・人馬一生」の制作（7月20日放送）に係る取材対応を6月5日に行った。
- ⑥ 研修生の落馬時の大けがを予防するため、柔道の心得のある職員による受け身の講習を6月6日に実施した。
- ⑦ BTC研修生OB・OG浦河会の開催に際して必要な助言を行い、6月6日OB・OG新人歓迎会にはBTC職員も参加、6月13日現役研修生の懇親会にはOB・OGも参加し、有意義な交流の機会とした。
- ⑧ 教官でない職員による研修生との面談を6月16日～6月25日の間と、9月3日～9月12日の間の計2回実施した。
- ⑨ 研修生向けの牧場説明会を9月16日～10月3日に実施し、28牧場が来場した（北海道拠点：24牧場、道外拠点：4牧場）。また、牧場説明会前に高樽優也 利用者振興会長による特別講義「育成牧場で働く心構え」を8月14日に実施した。
- ⑩ 小田卓朗氏（元オリンピック・スピードスケート日本代表選手、現浦河町職員）によるメンタルトレーニングに関する特別講義を11月4日にBTCあかしあ寮にて実施した。

- ⑪ 研修生の就職先の選択に資するため、11月10日～12月5日まで、各自1
牧場5日間のインターンシップを実施した。
- ⑫ 海外研修を行った42期研修生1名(2025年4月修了)からの報告会を11
月28日に実施した。
- ⑬ 2026年4月入講予定の第44期生については、96名の応募があり、27名
および補欠10名を選考した。補欠者は、就労者技能習得研修補助事業の「OJT
受講資格者」として事業主体である(公社)日本軽種馬協会及び(公社)競
走馬育成協会に推薦した。
- ⑭ 民間インストラクターによるフィジカルトレーニングを計12回、ピラテ
ィストトレーニングを計3回実施した。
- ・フィジカルトレーニング
(第42期生) 1/20、2/7、3/28
(第43期生) 5/16、6/20、7/29、8/22、9/19、10/10、10/16、11/7、12/9
 - ・ピラティストトレーニング
(第43期生) 5/16、6/9、7/14
- ⑮ 事業の情宣活動を拡充・改善するとともに、体験入学会を3月28日、6
月27日、7月4日、合同見学会(主催BOKUJOB)を7月18日、8月8日、
11月3日、働こう体験会(主催BOKUJOB)を8月1日、の計7回実施し、全
国より150名が参加した。また研修への入講を希望し、1月から10月まで
の間に個別に見学に来場した者18名に対応した。
- ⑯ BOKUJOB 事業への参画
- ・BOKUJOB2025 Web フェア(6月7日～8日)
 - ・牧場で働こう体験会(7月27日～8月2日)
 - ・BOKUJOB2025 メインフェア(東京競馬場:9月20日～21日)
 - ・BOKUJOB2025 関西フェア(京都競馬場:11月8日～9日)
 - ・BOKUJOB2025 サポートデスク
- 日本学校農業クラブ北海道連盟実績発表会:6月5日、12日
御殿場市・馬術スポーツセンター:7月24日
苫小牧市ノーザンホースパーク:8月5日～7日
宮崎育成牧場:9月23日
日本学校農業クラブ全国大会:10月22日～23日
三木ホースパーク:10月28日～11月2日
栗東トレーニング・センター:11月3日

- ⑰ UMAJOB 事業への参画
 - ・サナギ新宿：5月24日～5月25日
 - ・なんばCITYガレリアコート：10月25日～26日
- ⑱ 酪農学園大学獣医学群看護学類 椿下早絵 准教授による動物福祉に関する特別講義を12月4日に実施した。
- ⑲ イーストスタッド 佐古田直樹マネージャーによる講話を12月16日に実施した。

(3) 共同利用に供する軽種馬育成調教施設の運営・管理及び貸与

日高育成総合施設軽種馬育成調教場を不特定多数の軽種馬生産・育成者に共同利用のために提供し、その利用を通じ、軽種馬の資質の向上とともに経営基盤の安定、強化を図り、生産地の活性化に寄与した。

- ① 特定資産取得・改良資金を利用して、調教場管理用作業機械および調教場管理用車両等の調達を行った。
- ② 診療費の改定に向けて3月以降、利用者振興会役員等と協議し、4月以降は改定内容（5月26日施行）の広報を行った。
- ③ 1993年開場以来の調教場の延利用頭数が4月7日に400万頭に到達した。
- ④ 調教場利用者に対し、熱中症注意喚起チラシの配布、熱中症の「厳重警戒」が予測される日には公式LINEによる注意喚起、馬体冷却用として一部滞在厩舎の洗い場開放等を行った。
- ⑤ 屋内1000mトラック馬場新設その他工事の進め方や、一部通行規制等の周知を利用者に行うとともに、工事に関する定例会議に関係職員を出席させ利用馬の安全対策を行った。
- ⑥ 調教場利用者・浦河地区生産者・BTC/JBBA研修生に対して、2024年黄綬勲章を受章した名古屋競馬 宮下 瞳騎手の特別講演会を6月19日に開催した。
- ⑦ ホッカイドウ競馬において以下の2レースに協賛した。
 - ・8月6日 第7レース BTC特別
 - ・10月2日 第12レース BTC賞第3回ネクストスター門別
- ⑧ 調教場の利用状況
 - イ) 調教責任者の申請承認
 - 調教責任者 43名（法人38名、個人5名）

調教要員 650名（うち外国人 416名）
調教用馬 4,554頭（うち利用馬 4,076頭）
※調教要員および調教用馬は年間申請数

ロ) 利用頭数

利用延頭数 171,178頭（前年比 102.6%）
利用実頭数 4,076頭（前年比 101.1%）
1日平均 550.4頭（前年比 102.9%）
うち日帰り馬 505.0頭（前年比 101.4%）
1日の最高利用頭数 801頭（2025年12月17日）

※調教場開場以来の最高頭数更新

利用料収入 327,020,045円（前年比 111.0%）
※内診療収入 71,382,245円（前年比 126.3%）

⑨ 馬場および施設等の主な管理状況

イ) 屋内トラック馬場（600m）

通年で全面を9cmの均一な砂厚調整に努め、良好な状態に管理した。

ロ) トラック砂馬場（1600m）

5月、7月、8月、9月にコース中央部から外側にクッション砂を厚さ2cm～3cmずつ補充し、全面を9cmに管理した。

ハ) トラック砂馬場（800m）

9月にコース外側にクッション砂を厚さ2cm程度補充し、全面を9cmに管理した。

ニ) 直線砂馬場（1200m・1600m）

1200mコース中央部にクッション砂を厚さ3cm程度補充し、全面を9cmに管理した。

11月から1600mコースのクッション砂入替及びゴール旋回場の一部路盤改修を行い、全面を9cmに管理した。

ホ) グラス馬場直線走路（2000m）

本年も2コースに分けて管理を行い、蹄跡補修の目砂に黒土やピートモスを混合することで、芝の活着促進に努めた。

また、傷みが比較的激しい箇所には芝生張替えやカップ補修（芝の部分的移植）を行い、良好な状態となるよう管理した。

なお、屋内1000m馬場新設工事に伴いスタート地点を200m短縮した。

ヘ) 坂路グラス馬場

本年は芝枯もなく良好な状態に管理した。

ト) 屋内坂路馬場 (1000m)

9月に馬場を6日間クローズし、既存のウッドチップを表層から11cm程度スキ取り、篩分けした旧材と新材の混合材の補充を行い、ウッドチップ厚を25cmに調整した。また、5月～11月の期間中、定期的に少量の新材ウッドチップを補充(合計5cm厚程度)および攪拌を行い、良好な状態に管理した。

チ) 屋内直線馬場 (1000m)

5月から11月の期間中、定期的に少量の新材ウッドチップの補充(合計5cm厚程度)および攪拌を行い、良好な状態に管理した。

リ) 教育エリア トラック砂馬場 (800m)

均一な砂厚調整に努め、全面を9cmに管理した。

⑩ 競走成績

中央競馬 741勝 (前年度 706勝)

うち2歳馬 125勝 (前年度 105勝)

地方競馬 3,796勝 (前年度 3,659勝)

中央競馬のグレード競走 GI:2勝、GII:5勝、GIII:5勝

地方競馬で開催されたダート重賞競走

Jpn I:2勝、Jpn II:4勝、Jpn III:8勝

⑪ 育成調教場利用馬における育成調教の指針や飼育管理に関する情報を、利用者に提供するための調査研究を実施した。

イ) 利用馬に発生した熱中症の発症状況からリスクとなる環境因子を解析し、有効な熱中症予防方法について検討した。

ロ) 第一指(趾)骨不完全骨折発症馬の臨床的特徴および予後について回顧的調査を行った。

ハ) 育成馬における消化管寄生虫の汚染状況と駆虫薬の有効性について調査を行った。

ニ) 髻甲(きこう)部骨折発症馬の臨床的特徴および予後について回顧的調査を行った。

ホ) 研究成果を以下のとおり公表した。

a) 学会等の発表

「サラブレッド競走馬の第一指/趾骨の短い不完全矢状骨折

16症例に関する回顧的調査」

(第42回日本獣医師会獣医学術学会年次大会)

「育成牧場における消化管寄生虫対策および

虫卵排出状況ならびに駆虫薬の有効性」

(第53回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム)

「髻甲(きこう)部骨折を発症したサラブレッド種育成馬の12症例」

(北海道獣医師会 令和7年度北海道地区学会)

(日本ウマ科学会 第38回学術集会)

「道内牧場における馬の葉状条虫に対するプラジカンテル耐性の疑い例」

(北海道獣医師会 令和7年度北海道地区学会)

b) 講習会等

「馬の跛行診断」

(令和7年度獣医師専門技術研修会・江別市)

「馬の運動器疾患におけるエコー診断」

(令和7年度獣医技術向上研究会・帯広市)

へ) 職員(獣医師)の海外(英国)研修を8月16日～10月14日で実施した。

ト) 競走馬に携わる獣医師の診療技術および知識の向上を目的として、2名延べ8日間の研修を行った。また、馬の獣医師を目指す獣医学生6名延べ19日間、馬の診療助手を目指す学生3名延べ9日間のインターンシップを受け入れた。

2. 評議員会等

2025年2月19日

第1回 理事会(定例)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 2024年度事業報告及び決算の件
(2) 第1回評議員会(定時)の開催の件
(3) 利益相反取引の件

報告事項 (1) 2024事業年度における財産の運用状況
(2) 特定資産取得・改良資金に関する報告

出席等 決議に必要な出席理事の数4名、出席6名、監事出席2名

2025年3月11日

第1回 評議員会(定時)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 2024年度事業報告及び決算の件
(2) 規程の改正の件
(3) 評議員の選任の件

(4) 役員を選任の件

報告事項 (1) 2024 事業年度における財産の運用状況

出席等 決議に必要な出席評議員の数 5 名、出席 6 名、欠席 3 名、監事出席 2 名、理事出席 5 名

2025 年 3 月 11 日

第 2 回 理事会 (臨時)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 理事長及び専務理事の選定の件

出席等 決議に必要な出席理事の数 4 名、出席 6 名、監事出席 2 名

2025 年 5 月 29 日

第 3 回 理事会 (臨時)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 職員給与規程の改正の件

報告事項 (1) 資金運用規程及び職員就業規則の改正

(2) 理事長及び専務理事の職務の執行状況

出席等 決議に必要な出席理事の数 4 名、出席 6 名、監事出席 2 名

2025 年 11 月 18 日

第 4 回 理事会 (定例)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 2026 年度財産の運用方針案及び運用計画案の件

(2) 2026 年度事業計画案及び収支予算案の件

(3) 第 2 回評議員会の開催の件

報告事項 (1) 職員就業規則及び職員給与規程の改正

(2) 理事長及び専務理事の職務の執行状況

(3) 特定資産取得・改良資金の積立

出席等 決議に必要な出席理事の数 4 名、出席 5 名、欠席 1 名、監事出席 1 名、欠席 1 名

2025 年 12 月 9 日

第 2 回 評議員会 (臨時)

開催場所 日本中央競馬会札幌競馬場

決議事項 (1) 2026 年度事業計画案及び収支予算案の件

(2) 規程の改正の件

(3) 評議員の選任の件

(4) 役員を選任の件

出席等 決議に必要な出席評議員の数5名、出席8名、欠席1名、
監事出席1名、理事出席5名

3. 事業報告に関する附属明細書

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。